

WORKWEAR

mono
スペシヤル

ワークウェア

WORLD BOOK
平成22年9月30日発行(通巻811号)
コール・アウト811



連載第3回 オールが来た道

広告のトレンド、型紙、場所、値段

アメリカをつくった服

●さわやかをツッ飛ばせ！ネイビーの現場

NAVYは永遠の ライオン倉庫だ

ミリタリーサープラスを カルチャー・トレンドにした男

クリストフ・ロワロン(ミスター・フリーダム)

「ここに来ると、まるでトレジャー・ハンティング(宝探し)をしているみたいで、
すごくワクワクする。それにどの服もとってもクール!」

洋服好きのハリウッドの映画関係者やアーティスト、デザイナーたちが注目するショップが
ロサンゼルスのパリバー・ブルバードにある。「ミスター・フリーダム」。

そのオーナー、クリストフ・ロワロンさんは服の本質を突き詰める、流行嫌いのナイスガイだった。

構成/編集部 Photo/Kesaharu Imai



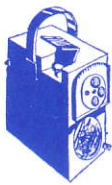
ハリウッドを通るパリバー・ブルバード
7161番地に位置するミスター・フリーダム
のショップ。レンガ造りで、面積3200
平方フィートという広大な店内には
1850年代に遡るヴィンテージからミリ
タリー、ワークウエア、靴、布、アクセ
サリーなどがぎっしりと詰まり、宝探し
は容易ではない。子どもの頃から海に憧
れ、フランス海軍に従軍した経験もある
ロワロンさんにとって、マリンウエアに
対する思い入れは特に強く、それが彼の
オリジナルデザインにも表現されている。



足を踏み入れた途端に、「なんだこれは!?!」と思わず叫んでしまった。ラックを埋め尽くし、棚に積み重ねられた服、服、服。店の空気に馴染んでくると、東京で話題になるような洒落たファッションセレクトショップがつまらない存在に思えてきた。至極、ファッショナブルだ。しかし流行を追うだけの浮わついた感じがなく、服に対する骨太な思いが自然と伝わってくる。この感覚が新鮮だ。ここはファッションをテーマとした巨大なアト・ギャラリーだった。

「ミスター・フリーダム」がハリウッドの真ん中に館を構えたのは2003年のこと。創業者でありオーナーのクリストフ・ロワロンさんは1990年にロサンゼルスに移り住んだフランス人だ。フランス生まれだが、父親の仕事の関係でアフリカ各地を転々としたという。異文化のなかで育ったことが、彼のなかで粹を取り払い、また感覚を研ぎ澄ませることになったのだろう。そう思わざるを得ないほど彼にはフランス人特有の気取りがなく、感性が鋭い。

ロサンゼルスに居を移した当初は「アメリカンラグシー」の販売員となり、やがてヴィンテージ・クロージングのバイヤーを



Mister Freedom
 7161 Beverly Blvd
 Los Angeles, CA 90036 USA
 TEL 1-323-653-2014
www.misterfreedom.co

務めた多くのヴァンテージを見るに依り、彼は次第にそれに満足できなくなってきた。なぜなら非常に細かい点が気になり、「本当はこうではないはずだ」、「こうあるべきだ」と思うようになったからだ。思うようなものが存在しなければ、作ればいい。こうして彼は自らのブランド「ミスター・フリーダム」を創業した。服、広告、写真などあらゆる古いものから発想を膨らませ、彼流の古くて新しく、今までにない服を生み出す。

TRUCKEY COX
PLOT COX
BRANDS & MARKS





ロワロンさんは部分をたいせつにする。たとえばポケット。サングラスをきちんと収めるにはどんな形とサイズがいいか、どんな蓋をつければ使いやすいか、ということを考えて、自分でポケットのプロトタイプを作る。自分自身で服全体を縫うことはできないため、部分を作り、縫製職人に指示を出す。彼の自由な発想は時には職人泣かせの形になることもあるという。



「ミスター・フリーダム」の店内にはオリジナルとヴィンテージ・クロージングが混在するが、それらがコンセプト毎にディスプレイされ、トータル・コーディネートションの提案がされている。コンセプトは多岐にわたり、たとえば「恐慌時代のワークウエア」、「海軍」、「陸軍」、「アウトドア」、「マドラス」、「アスレチック」、「バイカー」等々だ。

ロワロンさんはオリジナルを作る際には、まず時代、キャラクター、物語を設定する。

「私は海が好きです。私にとって海は未知の土地への旅立ちを象徴します。フランスで徴兵されたときも海軍に入隊しました。そして2年間、インド洋を航海し、山ほどの思い出があります。今でも海は大きなテーマで、常に昔の水兵のイメージが頭にあります。そこで海軍をテーマとしたオリジナルでは1930年代のフランス海軍の水兵が航海する物語を作り、服を考えます」

彼の発想は服という枠組みを越え、実に柔軟だ。シヨップの中2階の部屋が、彼の創造基地だ。彼がジーンズを取り出した。「1930年代の貧しい労働者が自分のために自分で作ったジーンズという想定で、手元にある生地や着占したジーンズのハ

